

ただ今 熱中ちゅう ⑥

ひょうたん

ひょうたんと言えば、天間と言われるぐらいひょうたんづくりが有名です。公民館で行われる年一回のひょうたん祭りには、カラフルで大中小、さまざまな形のひょうたんが所狭しと並べられます。地区で、ひょうたんに取りつかれた人、白金薫章（天間南・六十三歳）さんは、きょうもひょうたんづくりに一生懸命。



白金薫章さん

「始めたきっかけは、五年ぐらい前かな。近所の家に行って、玄関に並べてあるのを見てびっくり。自分もつくりたい」と思い、公民館の成人講座へ。今は月に一度の同好会で、技法の研究をして腕を磨いているよ。五月に種まきをしてからが、ひょうたんづくりの始まり。種類は四種類で、大きさは十から五十センチぐらい

「形の良い物から、色ウルシを塗るけど、最低七色は使う。水やすりで磨いて模様を出すんだけど、自分の思いどおりに出たときは、何ともいえないうれしきがあるよ。始めると、朝から晩まで時間を忘れるぐらい魅力があるんだ。」



限界に挑戦

「藤沢薬品野球部」



△口では絶対負けないぞ

我が野球部は、昭和41年富士工場が竣工されるとまもなく誕生し、市野球連盟に加入しました。

以後C→B→Aクラスをトントン拍子(?)に躍進し、現在に至っています。

部員は17名で平均年齢47歳のパワーあふれる強者(口達者)ぞろい。練習よりは試合で、果ては宴会で実力が発揮されるのは、言うまでもありません。昼休みの練習では、健康管理とチームワークを合い言葉に「心身のリフレッシュ、」体力と技術の限界に挑戦。最近の成績では、永年の目標であった県大会に出場することができました。次は全国大会出場を夢見ています。

そんな思いをさせつつ毎日光る汗を流しております。今後も温かいご声援をお願いいたします。

問い合わせ 藤沢薬品工業(株)富士工場

秋山 ☎52-3680

力を合 わせて

一つの目標に向かって

我が吉原二中は、三年前から体育大会でパネル応援を行っています。九月二十二日、全学級を五つに分け、各集団ごと約百人の生徒がパネルを使い人文字をつくり、その迫力を競いました。どの集団も工夫をこらし、中には物語形式のものもありました。準備は、三年生が中心となり、夏休みの間も学校に来て、構成から色塗り、張りつけまでの作業をやりました。そして、絵を合わせる練習では、違う絵を出してしまったり、ぴつたりそろわなかったりと、何度も失敗が続ききました。実際



△パネルの内側は

の演技はわずか五・六分ですが、そのために何十時間という時間と労力を使います。一つの目標に向かい、お互いに協力し合うことによって、私たちは団結をより深めることができました。本番でも心が一つにまとまり、感動をつくり出すことができ、それは私たちの大きな喜びになりました。



△100人の動きがぴったり

こちら編集室

「キイキイキイキイ」、木の上などでモズが鳴いています。町の中にキンモクセイの甘い香りが漂い、カキの実も赤くなり始めます。

私が一番秋を感じるのは、キンモクセイの香り。さてあなたは、味覚、臭覚、視覚、聴覚の内、何が一番秋を感じますか。